

第2 - 1期の活動計画の達成状況

重点分野1：大学拡充計画の推進	
<p>【基本方針:2】 さらなる医療・福祉の総合大学化と魅力づくり</p> <p>【基本方針:7】 教育の実践の場としての医療・福祉施設の展開</p> <p>【中期計画】2018-2020年度</p> <p>1. 新専攻分野の設置、収容定員の増加、大学院看護学分野の設置、助産師課程の検討と実現へのプロセスの推進</p> <p>2. 新専攻分野の設置等に伴う施設の改修と教育環境などの改善に向けた取組</p> <p>3. 附属医療施設の設立と体制整備に向けた取組</p>	
<p>責任者:水谷 史生 (法人事務局長)</p> <p>分担者:山口 えり子 (企画広報課長)、宮崎和裕 (管財課長)、勝田能成 (前管財課長)、清水計雄 (医療福祉事業管理室)</p> <p>事務局:企画広報課</p>	
2018年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 新専攻分野の設置、収容定員の増加、大学院看護学分野の設置、助産師課程の検討と実現へのプロセスの推進	<p>①保健衛生学部理学療法学科を改組し、2019年4月に保健衛生学部リハビリテーション学科理学療法学専攻、作業療法学専攻を開設するための申請手続きを進める。 また、学科と事務局と調整を諮りながら開設の準備を進める。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>保健衛生学部理学療法学科を改組し、平成31年4月リハビリテーション学科理学療法学専攻、作業療法学専攻を設置するため収容定員増の認可申請、学科設置の届出、作業療法士の養成指定校の申請を文部科学省に提出し、学生募集活動、PRを行った。リハビリテーション学科は、保健衛生学部の教育研究目的に基づき、リハビリテーション諸科学、医学等に精通し、社会人、職業人、国際人として生涯にわたって自己研鑽できる理学療法士および作業療法士を養成することを目的とする。 特に収容定員増として、作業療法学専攻 収容定員160名を新設し、初年度入学定員40名に対し、43名の入学者であった。</p> <p>②2019年4月保健衛生学部鍼灸サイエンス学科に、鍼灸・スポーツトレーナー学専攻を新設し、スポーツトレーナーに関する資格が取得できるコースを新設する。(日本トレーニング指導者協会:トレーニング指導者、NESTA:パーソナルフィットトレーナー)</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>平成31年4月保健衛生学部鍼灸サイエンス学科では、鍼灸学専攻に加え、新たに鍼灸・スポーツトレーナー学専攻を開設し、この専攻希望の入学者は27名で学科全体では34名(入学定員30名)であった。本専攻は、スポーツの専門知識を兼ね備えた鍼灸師を育成する。トレーニング指導者(JATI)とパーソナルフィットネストレーナー(NESTA)の資格を得ることでスポーツ選手や健康運動実践者への鍼灸治療、リハビリ、さらにはコンディショニングなどのきめ細かい指導を行うこ</p>

	<p>とができ、科学的に日々進歩しているスポーツや運動分野で貢献できる鍼灸師の育成を目的に開始した。</p> <p>③2019年4月に、大学院医療科学研究科医療科学専攻に看護学分野を設置するための準備を進める。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 平成31年4月大学院医療科学研究科医療科学専攻修士課程に看護学分野を設置する新カリキュラム及び兼任教員を配置した。 修士課程看護学分野は、平成31年4月に入学生2名(社会人)を受け入れて開始している。</p> <p>④2020年4月に、看護学部看護学科の入学定員を80名から100名に定員増加するための検討を行う。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 令和2年(2020年)4月看護学部看護学科の入学定員を80名から100名に増加することが平成30年9月理事会において承認され、現在、収容定員増の認可申請、看護師養成指定校の変更申請の準備を進めている。</p> <p>⑤助産師課程の設置について検討する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 助産師課程の設置については、設置形態や人事、施設、設備等引き続き可能性を検討していく。</p> <p>⑥平成30年4月大学院医療科学研究科医療科学専攻に、臨床心理士及び国家資格である公認心理師の養成を目的とした臨床心理学分野を開設する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 平成30年4月に大学院医療科学研究科医療科学専攻修士課程に臨床心理学分野を開設し、本学学部卒業生5名と現役教員など社会人5名を含む12名が入学し、「公認心理師」、「臨床心理士」の受験資格に対応したカリキュラムで授業及び実習指導を開始した。 「臨床心理士」受験資格については、日本臨床心理士資格認定協会より平成31年3月29日に指定を受けることができた。また、「公認心理師」受験資格については、文部科学省・厚生労働省より、平成31年3月29日に公認心理師となるために必要な科目の基準を満たしている旨回答を得ることができた。</p>
<p>2. 新専攻分野の設置等に伴う施設の改修と教育環境などの改善に向けた取組</p>	<p>①改善を要する箇所の「実施日」「実施内容」を検討する。 <千代崎キャンパス> ・空調機器更改(実験実習等2・3階)→2年目(Ⅱ期工事) ・受電設備更新工事4ヶ年計画→2年目(Ⅱ期工事) ・A講義棟空調改修3ヶ年計画→初年度 ・リハビリテーション学科設置に係る改修工事 ・鍼灸サイエンス学科改編に係る改修工事 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ・実験実習棟の空調機器更改…平成30年6月施工済み。 ・受電設備更新Ⅱ期工事…平成31年3月施工済み。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ A講義棟空調改修初年度工事…平成 31 年 3 月施工済み。 ・ リハビリテーション学科の施設については、A講義棟の一部を改修し、作業療法学専攻の実習室 2 室を設置、JART 記念館の一部を改修し実習室 2 室、ゼミ室 8 室、教員研究室 8 室を整備した。 平成 31 年 3 月施工済み。 ・ 鍼灸サイエンス学科の施設については、体育館に本専攻専用のトレーニングルーム・更衣室を整備した。 平成 30 年 12 月施工済み。 <p><白子キャンパス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講堂屋上防水改修工事→2 年目（Ⅱ期工事） ・ 1 号館連結送水管他移設工事 ・ コミュニティハウス屋内消火栓配管改修工事 ・ 4 号館改修工事（大学院設置関連） ・ 1 号館 1 階男子トイレ改修工事 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講堂屋上防水Ⅱ期工事…平成 30 年 6 月施工済み。 ・ 1 号館連結送水管他移設工事…平成 30 年 5 月施工済み。 ・ コミュニティハウス屋内消火栓配管改修工事…平成 30 年 5 月施工済み。 ・ 大学院医療科学研究科看護学分野の施設設備に伴う 4 号館改修工事…平成 30 年 12 月施工済み。 ・ 1 号館 1 階男子トイレ改修…平成 30 年 9 月施工済み。
<p>3. 附属医療施設の設立と体制整備に向けた取組</p>	<p>大学附属病院設立に向け、下記の取り組みを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の基本設計及び概算工事費等について検討する。 ・ 特例病床設置許可を得るために県と綿密な協議を行う。 ・ 文部科学省へ大学附属施設設立の寄附行為変更申請に係る事前相談を行う。 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月にかけて延べ 6 回にわたる学内「緩和ケア検討会」（座長：学長）を実施し、基本設計及び概算工事費等を決定した。 ・ 文部科学省へ大学附属施設設立の寄附行為変更申請に係る事前相談を行った。 ・ 平成 31 年 4 月 9 日三重県知事より厚生労働大臣同意の通知、特例病床設置 25 床の許可を受けた。

第2 - 1期の活動計画の達成状況

重点分野2：大学広報の強化と入学者受入れの改善	
<p>【基本方針:2】 さらなる医療・福祉の総合大学化と魅力づくり</p> <p>【基本方針:3】 戦略的広報の展開</p> <p>【中期計画】2018-2020年度</p> <p>1. 広報活動の強化および大学ブランド力を向上させる情報発信</p> <p>2. アドミッション・ポリシーに沿った学生確保の実現と入学に直結する広報活動の強化と入試制度等の検証と改善</p>	
<p>責任者:長村 洋一 分担者: 小山 尚樹 (入学課長)、山口えり子 (企画広報課長) 事務局:入学課</p>	
2018年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 広報活動の強化および大学ブランド力を向上させる情報発信	<p>①効果的な広報戦略の立案・実行 (新規広報戦略) 「学生募集広報 (入学課) と大学広報 (企画広報課) の連携と双方の充実化を図る」</p> <p>1. 2018年10月までに、受験生の入試動向の分析をする。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 「アクセスオンライン」(資料請求者管理システム) と入学課で管理している「受験者情報」から平成29年度と平成30年度高校卒生を抽出し、動向分析を行った結果、以下の内容を確認した。 [分析結果] ・オープンキャンパス参加者の増員を行うためには、高校生との事前の接触回数を増やすことが必要。 ・東海地区の学生だけではなく、他エリアの学生を確保するための広報戦略が必須。 ・女子の歩留まり率を高くするために、ターゲットに向けたコンテンツや何を必要としているのかを検討。 ・学生の「大学への期待値」を上げるためのコンテンツ発信が必要。</p> <p>2. 2018年10月までに、広告広報の費用対効果の測定をする。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 【公式SNS (LINE/Instagram) の開始】 平成30年3月下旬より受験生向け公式SNSの運営を開始し、現在のInstagramユーザー(フォロワー)数202名、Line友達数552人を獲得することができた。 【大学ホームページ】 以下のサイトを立ち上げ、ホームページの充実化を図った。 ・「大学ホームページのリニューアル」 ・「女子学生寮・学生指定寮のリニューアル」 ・「資格紹介サイト」 ・「作業療法学専攻 特設サイト」 ・「鍼灸・スポーツトレーナー学専攻 特設サイト」</p>

	<p>・「オープンキャンパス 特設サイト」 [分析結果]</p> <p>・「Google Analytics」(アクセス解析ソフト)を利用し、新規ユーザーでの平成29年度と平成30年度を比較した。</p> <p>・<u>ページビュー数</u>:「2.79%」増加 (平成29年度 753,505ページ:平成30年度 774,518ページ)</p> <p>・<u>直帰率</u>が昨年度より「26.16%」減少 (リニューアル前 66.75%:リニューアル後 49.29%)</p> <p>ホームページの充実化により、ユーザーにとって、本学がより求められる方向に動いた。</p> <p>(※帰属率とは、ユーザーが本学のホームページを開いた時に、「見にくい」「分かりにくい」などの理由で、メニューをクリックされずにページを閉じてしまう率を指す。)</p> <p>今後、歩留まりの数値とweb広告を行った際の資料請求1件の単価で計算し、費用対効果について考えていく。</p> <p>3. 2019年3月までに、新たな大学PR方法の検討をする。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究に関する特設サイトを構築予定。 ・Webマガジンの新規制作予定。 <p>②強化的な広報戦略</p> <p>1. 2019年3月まで、新設 作業療法学専攻及び鍼灸・スポーツトレーナー学専攻の情報発信を強化する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>大学ホームページに、新設2専攻(作業療法学専攻、鍼灸・スポーツトレーナー学専攻)の特設サイトを開設し、専攻の概要や特長についての周知、および志願者拡大に向け、最新情報を提供した。</p> <p>平成30年10月29日(月)、新聞社対象に「新設学科・専攻 開設説明会」を実施し、4社からの取材を受けた。(中日、朝日、読売、伊勢新聞社の4社)</p> <p>新聞広告や取材などメディア掲載に於いては、特に新設学科・専攻についての積極的なアプローチに努め、本学での学びのフィールド拡大の周知へと繋げた。</p> <p>2. SNSの展開と戦略の強化をする。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LINEでは、通常の配信だけではなく、「リッチメッセージ」「リッチメニュー」を利用し、機能面などを充実させた。 ・Instagramでは、積極的なハッシュタグを利用し、アカウントだけではなく、ハッシュタグ自体を充実させた。 <p>③大学ブランドカアップのため、大学の取組み・教育内容や研究成果・地域貢献活動等の積極的発信</p> <p>1. 随時、新聞、テレビ、ラジオなどのマスメディアを利用した広告・PR活動をする。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>県内報道機関へ、本学の教育・研究・社会貢献活動に関する情報発信を随時行った。</p>
--	--

	<p>新聞広告やメディアへの掲載に於いては、特に新設学科・専攻についての積極的な広報に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>プレスリリース投稿</u>：計 20 件（左記のうち、取材に至った件数は 17 件：延べ計 39 社） ・<u>メディア掲載状況</u>：計 60 件 ※上記 39 社を含む （テレビ 15 社／新聞 40 社／雑誌 5 社） ・<u>新聞広告／メディア協賛</u>：計 19 件 <p>今後も県内報道機関との信頼関係を構築し、メディアに興味を引く情報提供を心掛けていく。</p> <p>2. 大学ホームページの充実化を図り、随時、大学ホームページを利用した情報発信をする。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>平成 30 年 3 月下旬にリニューアルした大学ホームページを活用し、積極的な広報活動を行った。</p> <p>特に、写真や図を新しいものに入れ替え、より理解できるようにコンテンツの充実化を図った。</p> <p>また、学生寮（女子）・学生指定寮のホームページのリニューアルも行い、平成 30 年 12 月に公開済みである。</p> <p>3. 随時、学生獲得のための SNS を利用した情報発信をする。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>平成 30 年 3 月下旬から運営を開始した公式 SNS（LINE/Instagram）を利用し、積極的な情報発信を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>LINE</u>：26 件（メッセージ 16 件、タイムライン 10 件） ・<u>Instagram</u>：28 件 <p>今後は投稿の幅を広げ、多方面からのアプローチを計画している。また、ユーザー（フォロワー）増加に繋がるコンテンツを構築していく予定である。</p> <p>④大学ポर्टレートへ継続的に参画し、大学運営の現状に関する情報公開を充実させる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2018 年 7 月までに、公表情報の確認と更新をする。 2. 最新情報を定期的に更新し、魅力ある内容発信に努める。 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>大学ポर्टレートについては、平成 30 年 7 月に各学部・各研究科・事務局各課において、内容確認と更新作業を実施されており、その後も担当部局等において更新作業を実施し、常に最新の情報公開を行っている。</p>
<p>2. アドミッション・ポリシーに沿った学生確保の実現と入学に直結する広報活動の強化と入試制度等の検証と改善</p>	<p>① 2018 年 10 月までに、各学部・学科ごとの「高校での学習目標（範囲・レベル）」を明記し、その内容に沿った学生確保を実現していく。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>すでに、2019 年度学生募集に掲載し周知を進めている。また、選抜試験内容の修正・変更も継続して行っている。</p> <p>②高等学校との連携強化を継続する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高校での進路ガイダンスや模擬授業の実施をこれまで以上に増やして行く。

	<p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>1 2 9 件のガイダンス・模擬授業に参加、実施した。(昨年度 1 1 5 件)</p> <p>2. 高校 1、2 年生を対象としたキャリア教育への積極的に参加を進める。(高校版ポートフォリオへの協力)</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>高田高校において、キャリア教育の一環として「主体的な探求活動」に講師を派遣し、高校版ポートフォリオ作成に寄与した。</p> <p>③医療系職能団体との連携を強化する。</p> <p>各職能団体が主催する高校生向け行事への積極的参加を進める。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>県看護協会、県作業療法士会などの主催行事において P R 活動を積極的に行った。</p> <p>④2020 年度入試に向け、入学者選抜方法の検証を継続する。</p> <p>1. 学部学科ごとに各選抜区分の募集状況や入学者の学力等を把握し、適宜改善を進めていく。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>各入試形態において修正・変更を行った。主に試験会場の変更や受験科目の追加、修正を進めている。</p> <p>2. 高校別の志願、入学状況を把握し、広報活動と選抜方法へのフィードバックを進めていく。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>前年度に引き続き継続して行っている。</p> <p>3. 大学入学共通テスト(2021 年度入試より導入)と高大接続改革に対応できる入試制度の改革を進める。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>文部科学省の具体的な改革内容とそれに対しての他大学の対応についての情報収集に努めており、2019 年 10 月までには方針を明確化させる準備を進めている。</p> <p>⑤2020 年度入試に向け、特待生制度(奨学金制度含む)の検証と改善を進める。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>現状の学生募集状況に鑑み、薬学部を対象とした独自の特待制の検討を開始した。</p>
--	---

第2 - 1期の活動計画の達成状況

重点分野3：教育内容の充実	
<p>【基本方針1】 教育の質の向上と到達度重視の教育、面倒見の良い教育サポート体制の確立</p> <p>【基本方針2】 国家試験対応の教育を基盤としつつ、社会の求める高いレベルの医療人教育の実現</p> <p>【中期計画】2018-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の質的向上を目指す新しい仕組みの確立 2. 学生に合わせた到達度重視の教育を推進 3. 面倒見の良い教育、満足度の高い教育の実現に向けた取り組み 4. 学修サポートシステムの導入と活用および自主学修・グループ学修体制の整備 5. 国家試験や資格試験に対応し全員合格を目指す教育 6. 医療人底力教育の充実発展と多職種連携教育の推進 	
<p>責任者：鎮西康雄（教務・教育改革担当副学長） 分担者：東英一（底力教育推進センター長・副教務委員長）、出屋敷喜宏（FD推進委員長）、松永ひとみ（教務課長） 事務局：教務課</p>	
2018年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育の質的向上 目指す新しい仕組み の確立	<p>総合大学としての組織学科体制の拡大を図ってきたが、教育の質の向上が次の目標である。質の担保の重要性を全学的に認識し、その内容を共有し、教育に反映させていく。シラバスの整備と学生評価の確立、教員授業の評価と管理がポイントとなる。</p> <p>① I R機能の充実とそれに基づく教育改革の推進 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学科別に具体的な分析結果報告会を開催し、学長含め活発な意見交換がなされ、学科の教育活動に反映できた。 さらに今後は IR 推進室が導入しているソフト sas を各学科に1名使用できる教員を決定し、全学的な分析から、直接的な分析をすることによって、教育改革改善につながる体制を整えることを計画中。</p> <p>②教育の質に係る客観的な指標づくり(2019.3まで) <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 カリキュラムマップに、学生自ら修得科目を成績別に色を塗り、その資料を基に担任教員との面談を重ねる仕組みに添って、学生の修得内容及び学科全体の教育内容を双方向から客観的な視点でチェックし、教育の質保証を担保する仕組みを実施した。 さらに教育の質を保証する委員会（教育質保証委員会）を学科内に設置し、その目的・役割等について定めることとした。</p> <p>③学科・専攻等の各教育単位による授業管理の徹底(2019.3まで) <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 質の高い教育実現のため、教育理念と目標を、教育の質の向上という観点での見直しを3年かけた結果、2020年度カリキュラムを全学的に変更することを決定した。 教育質保証委員会では、教育の質保証という観点から、各科目</p>

	<p>の授業内容が「建学の精神」「教育の理念」「教育目標」「3つの方針」に沿ったものになっているか、教育単位として学科毎に確認していく役割を計画中。</p> <p>④シラバスの整備と充実 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 教育目標に沿ったものであるか等のシラバスチェックは第3者によって厳密に行っているが、非常勤講師など外部講師に向けた修正が課題である。そこで、教育質保証委員会の役割の一つとして、学科内におけるチェック機能を強化する検討を含めることとした。</p> <p>⑤FD活動による教員意識の改革と授業改善の取り組み <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 以下のように教育講演会及び教育研究会を実施して教員の教育技術の向上に努めた。 ・FD講演会開催：2018年9月3日(月) 「10年後、価値ある大学を目指して～近年の高等教育政策～」 講演者 大正大学 教授 山本 雅淑 氏 ・教育研究会開催：2019年3月19日(火) 「 本学の教育の飛躍的發展を目指して ―アクティブラーニングへの取り組み― 」 なお、FDマニュアルを作成しているが、学修サポートシステム導入に伴い、クリッカー利用マニュアルを含めるか否かなど、ほぼ仕上げの段階である。</p> <p>⑥教育実績や業務内容の情報公開 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 大学のホームページに公表している。 ・学生による授業評価高得点賞受賞者に関する情報 ・学修時間・教育の成果・学生の反応、等に関する情報 ・FD活動やIR推進室の業務内容 ・学内外の教員による研究発表会の開催情報</p>
<p>2. 学生に合わせた到達度重視の教育を推進</p>	<p>学生のレベルや理解度に合わせた、よく分かる授業、身につく授業を目指す。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 「とことん分かるまで教育」そして「何を教えたかではなく何を身に付けたか教育」の実現に向け、検討した結果、既存の教務システム Sums-PO をバージョンアップすることによって、クリッカーや小テストを実施できる環境を整えることを決定した。そこで、学修支援システム導入に伴い検討部会を設置し、部会の教員による新機能活用に関する説明会を開催し、利用促進を計画中。 また、教育質保証委員会の役割の一つとして、学科内における中下位層学生の指導体制を強化する検討を含めること</p>
<p>3. 面倒見の良い教育、満足度の高い教育の実現に向けた取り組み</p>	<p>他大学には真似のできないきめ細かい個を見逃さない魅力ある教育を実現する。成績不振学生への手厚い個人指導を含む指導と、一方で一層高いレベルの学力と総合力を培う教育を行って、高い満足度が得られるバランスの取れた教育を実施する。</p>

	<p>① 基礎学力養成教育の充実 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 教育重視の専任教員を新規に採用し、リメディアル教育、専門科目授業の理解に必要な基礎教育などの検討を進めている。</p> <p>②成績不振学生の個別指導 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 各学科・専攻とIR推進室が協力し、成績不振学生抽出について、審査会を開催した。今後は、学科に一名ずつIRシステムを操作できる教員を置き、抽出や分析を可能にすることとし、さらに教育質保証委員会の役割の一つとして、成績不振者対象学生の学修指導体制の構築を含めることを計画中。</p> <p>③留年学生のサポート体制の構築 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 特別留年学生制度を制定し、2019年度より21名受け入れている。留年学生別プログラムを教務課へ提出し、教育指導中である。</p> <p>④学修相談体制の整備 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 大学として、木曜1限目をオフィスアワーとして設け、学生が授業内容について、いつでも相談できる体制を構築した。</p> <p>⑤不合格科目及び留年を減らすための取り組み <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 留年ゼロ作戦を実施し、2018年度は千代崎72名、白子190名の利用があった。なお、作戦内容の本来の目的とするあり方を徹底するために、継続検討している。 学科毎に学生一人あたりの不可科目数、留年学生数を算出し、2020年度には2018年度の30%減を目標としている。ちなみに、全学平均として2018年度は、学生一人あたり不可科目数0.55科目のため、約2人に一人から約3人に一人1科目不可を目指す。なお、留年学生数は203名のため142名を目指す。</p> <p>⑥学生の高いレベルの教育、総合力を培う教育 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 医療人底力実践「展開」や「応用」科目を多くの学生が履修できる体制を整え、医療現場での対応能力を備え、将来のリーダーたり得る医療人教育を行うため、検討を繰り返した結果、学外実習と日程が重ならない春休みの実施を決定した。 2019年度は、より多くの多職種学生の履修を促すこととした。(2018年度履修者数：「展開」37名、「応用」16名) 教育質保証委員会の役割の一つとして、学科内において、社会が医療教育に求めるレベルを意識し、より高度な知識・技術・人間性を培うことのできる教育レベルに関する検証を含めることを計画中。</p>
<p>4. 学修サポートシステムの導入と活用および自主学修・学生グループ学修体制の整備</p>	<p>新に学習支援システムを導入して、学生の自学自習を支援し、自主的なグループ学修・ピアサポートの伝統(学風)を醸成する。</p> <p>①学修サポートシステムの導入 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p>

	<p>上記達成状況の具体的内容 学修サポートシステムを2018年度に選定し、2019年5月に導入することとした。</p> <p>②学修サポートシステムを利用した自学自習・演習の実現 ◆2019年2月までに学修サポートシステムを活用した仕組みを作り2019年4月から全学的に活用を開始する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 学修サポートシステムを利用した国試対策、自学自習・演習等の利用説明会を開催し、全学的な活用を目指し、検討している。</p> <p>③学生ピアサポート体制・グループ学修体制の構築 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 木1のオフィスアワーについて、シラバスに明記し周知徹底を図った。さらに空き時間の増加を検討し、グループ学習等の仕組みを検討する。</p> <p>④学修サポートシステムを活用したポートフォリオの検討 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 学生、保護者、そして担任教員がポートフォリオを確認できる環境を整えた。今後も運用方法について検討していく。</p>
<p>5. 国家試験や資格試験に対応し全員合格を目指す教育</p>	<p>本学の使命のひとつが優秀な医療人の育成であることから、国家試験や資格試験に合格する教育が基本である。入学前、初年次教育、専門教育、最終学年にわたり資格試験を意識した一貫した教育カリキュラム構築が必要である。</p> <p>① 専門基礎科目・専門科目等の授業の中での取り組み。 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 すべての教員が国試問題に精通し、学生が授業の中で重要事項を理解し、記憶することを完結する授業を実践する。シラバスに資格試験のポイントを明記するなど様式を計画中。 教育質保証委員会の役割の一つとして、学科内における学生の理解度や記憶度をチェックし検証する仕組みを検討する。</p> <p>② 一貫した国試対策プログラムの作成と実践 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 教育質保証委員会の役割の一つとして、学科内において国家試験対策プログラム作成及び実施に関する検討を含める。 学科内のプログラム実施状況については、教育質保証委員会で把握し、国試対策委員会の中で、報告する仕組みを計画中。</p> <p>③学修サポートシステムを利用した国試対策体制の整備 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 通学時間中及び学外実習期間中にも、資格試験に関連した演習が自学自習できる環境を整備した。実施方法については、機能別に説明会を実施し、全学的な利用促進に努める。</p> <p>④心身健康支援体制の整備 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p>

	<p>木曜1限目をオフィスアワーとし、学修指導と同時に心身健康サポートを行うため個人面談を組み込むなど、サポート体制を構築した。</p>
<p>6. 医療人底力教育の充実発展と多職種連携教育の推進</p>	<p>初年次教育としての「医療人底力教育」・チーム医療教育のこれまでの蓄積と反省に基づき、更に充実発展させる。また上級生向け実践的応用編である「多職種連携教育」を充実させ、社会の求める高いレベルの医療人教育を実現する。</p> <p>① 医療人底力教育のあり方と更なる教育内容の見直し</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>底力教育4年間の実績と反省でまとめられた問題点や改善点を検証し、教育課程の見直しが完成した。具体的に内容及び科目名の変更、そして必修にクォーター科目増やし、2020年4月から新カリキュラムをスタートすることが承認された。</p> <p>②チーム医療教育・多職種連携教育の推進</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2020年度より新カリキュラムとして、科目名等を変更し、実施することを決定した。教育重視の教員を新規に採用し、他職種理解と多職種連携の必要性和意義を学ぶ教育として、医療の総合大学としての本学ならではの教育ができるように改善を図った。</p>

第2 - 1期の活動計画の達成状況

重点分野4：学生支援の強化	
<p>【基本方針:1】 満足度の高い教育の推進 【中期計画】2018-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国家試験、資格試験の合格率100%を目指したより効果的な国試対策指導方法の具体化および実施 2. 就職率100%を目指し、求人・求職側ともに納得できる就職の実現に向けた支援体制構築の取り組み 3. 学生の満足度向上に繋がる学生生活支援体制の構築 4. 大学行事、学友会活動、ボランティア活動への積極的な参加の促進と自主的に活動する学生の育成 	
<p>責任者:長村 洋一 (学生・社会貢献担当副学長) 分担者:山門 徹 (健康管理センター長)、大井 一弥 (国家試験対策 WG 副委員長)、綾野 眞理 (学生相談室長)、谷口 弘 (就職・キャリア支援課長)、勝田能成 (学生課長)、田中 宏治 (前学生課長、白子学生・就職課長)、宮崎 和裕 (前白子学生・就職課長) 事務局:学生課</p>	
2018年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 国家試験、資格試験の合格率100%を目指したより効果的な国試対策指導方法の具体化および実施。	<p>●国家試験 WG にて各学科、専攻における国家試験対策の情報共有により、各学科の気づきが生まれることで、今までにない新しい教育方法にトライすることが可能となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学科が受験する国家試験の特性を理解し、情報共有を図る。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) <p>上記達成状況の具体的内容 6月に前年度の結果・反省点を各学科・専攻から報告し、今年度の取り組み・目標設定について発表を行った。11月に取り組みの進捗状況及び、受験予定者数見込みを発表した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験に向けたモチベーションの維持・向上の方策について各学科が構築してきた指導方法をWGで発表し、各学科の従来までの指導と比較検討を行う。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) <p>上記達成状況の具体的内容 6月に各学科の国試対策の取り組みについて意見交換を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学科、専攻の問題点を考慮し、100%達成する為の方策を12月初旬を目途にWGで検討する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) <p>上記達成状況の具体的内容 11月に取り組みの進捗状況と国試受験予定者の絞り込みに関して、発表した。</p>
2. 就職率100%を目指し、求人・求職側ともに納得できる就職の実現に向けた支援体制構築の取り組み。	<p>●職業選択において、広い視野を持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食に関して、幅広い就職先が考えられる管理栄養学専攻の学生や資格試験を必要とせず就職活動を行う学生に対して、3年時3月までに学内での業界説明会を開催したり、会社見学へ引率する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) <p>上記達成状況の具体的内容 地元食品メーカーの見学、給食・産業給食会社の業界説明会を複数回、実施した。</p>

	<p>●就職試験対策の充実。</p> <ul style="list-style-type: none"> 採用選考において、「一般常識試験」「SPI 試験」「論作文試験」等の筆記試験で振るい落とされる場合が少なからずある。 具体的な対策として、3年時6月に模擬試験実施⇒7月に試験の解説⇒9月上旬に対策講座の実施を行う。 講座に出席しない学生に対し、個別面談を行い、就職に対する考えを聞き取り、12月下旬もしくは2月下旬に絞り込んだ内容の就職試験対策講座を実施する。 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 模擬試験を行い、解説と模擬試験対策の重要性について説明し、講座の実施は行ったが、未出席者の個別面談と再度の対策講座は実施していない。 就職試験の実態を低学年時から意識させるため、9月実施の対策講座に1・2年生の参加を促す。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 1・2年生に参加を促したが、10名程度の参加者であった。 <p>●薬学部1～4年次生を対象とした「キャリア面談」の受付を前期期間中に告知する。まずは薬学部のみとし希望者と面談を行い、将来のキャリア設計の礎を築く。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2018年7月に学内掲示板及びメールにて薬学部学生へ告知済み。また、2019年新年度ガイダンスにおいては告知プリントを配付した。しかしながら、面談希望者は若干名であった。</p>
<p>3-1. 学生生活支援体制の強化- 学生の要望や状況を常に把握し対応する体制の強化</p>	<p>①学生アンケート等を継続し、学生の意見・要望を汲み上げるシステムの整備を検討。</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートを継続的に実施し、分析する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 <ul style="list-style-type: none"> 学生総会時に、学生生活や大学における施設・設備等についてのアンケート調査を行い、個々の意見・要望等を取りまとめた上で事務局会議(課長会議)において報告及び、関係各課に対し改善検討の依頼を行った。 学友会組織との面談、聞き取りを実施する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 <ul style="list-style-type: none"> 7月3日に、学友会顧問・学生課長及び、学生課学友会担当職員と、学友会執行部員のほか、クラブサークル運営委員会等各種学生団体の役員による懇談会を開催した。 卒業生へのアンケートを継続的に実施する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 <ul style="list-style-type: none"> 本学ホームページ内に常時「卒業生アンケート」を掲載しており、毎年年度末に集計を行い、その結果について事務局会議(課長会議)にて報告及び、関係各課に対し改善検討の依頼を行った。 学長と学生との意見交換会を定期的実施する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 12月に2回・1月に1回の計3回、学長と学生の懇談会を学長

	<p>室にて開催した。</p>
<p>3-2. 学生生活支援体制の強化- 健康管理支援体制の整備 (からだ・こころ)</p>	<p>①健康管理センターと白子保健室のスムーズな連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康管理センター、白子保健室の充実を検討する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学生健康診断結果や抗体検査結果(学生の予防接種状況)、保健指導対象者一覧などについて、大学共有フォルダー内で情報共有を行うことで、学生が健康管理センターおよび白子保健室のどちらへ来室しても、看護師がスムーズに対応できるよう連携を行った。 ただし、情報更新がリアルタイムではないため(時間のあるときに後から入力することもあるため)まれに最新の情報になっていないことがあるが、電話で問い合わせることで、問題なく業務はできている。 利用状況調査、統計の作成を行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 健康管理センター、白子保健室共に来室者数と利用内容について受付簿にて統計をとり、学科別学年別に1年間の利用状況について一覧表を作成した。 <p>②学生相談体制の向上(毎月の相談対応についての分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生相談室の充実を検討する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 室長および相談員で定期的にミーティングを開催し、情報を共有し、学生対応の質を高める努力をした。 学内関係部署、外部との連携強化を行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学内では、健康管理センター、白子保健室、学生課、利用学生の所属学科の教員等と必要に応じて、守秘義務に留意しながら適宜、情報共有、連携などを行なった。 学外では、必要に応じて、利用学生を近隣の医療機関に紹介、情報提供などを行なった。また、障害者支援を必要とする学生について、卒業(退学)後も引き続き支援が受けられるように、三重県内のサポートステーションスタッフとの連携などを行なった。 予防的対応の検討、強化を行う。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 大学機関誌の学生相談室コーナー、一斉メール機能などを用いて、メンタルヘルスに関する情報を発信したり、学生相談室を理解していただくための情報を発信した。 <p>③障がい学生支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援体制と関係部署のさらなる連携の強化を行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 障がい学生支援委員会を設置し、学生から支援要望書の提出があった際には速やかに委員会を招集するとともに、必要に応じて申出学生が所属する学科の教員も交え支援内容について検討を行っている。

<p>3-3. 学生生活支援体制の強化-福利厚生と基本的な生活指導</p>	<p>①福利厚生施設、学内環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動、通学指導（学内交通環境、駐車場、駐輪場）、各種講演会の開催の継続を行う。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 年間を通じて週3回のあいさつ運動・通学指導を教職員協働により実施した。さらに、8月8日に地元自動車学校より講師を招いて交通安全講習会を開催した。 ・学生アンケートの結果を把握し、検討していく体制の整備を進める。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 各種学生アンケート調査の結果は学生課にて集計を行い、要望に対する対応については、事務局会議(課長会議)のほか、学生指導委員会で検討を行っている。 ・学生への食生活調査の実施及び栄養指導への展開を進める。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 4～5月に実施される健康診断時にて、食生活調査を行った。また、健康診断の結果を参考に、痩せや肥満などの学生を対象に栄養相談を実施している。 ・学生食堂の更なる充実に向けての取組を行う。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学生食堂委託業者の担当者と定期的な面談を実施している。
<p>4. 課外・社会活動の自主的参加への支援</p>	<p>①学友会、クラブ・サークルの活動を支援。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学友会組織の継続的支援を行う。 ・クラブ・サークル活動の継続的支援を行う。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 年6回開催されるクラブサークル委員会に学生課職員も出席し、委員会運営に対する助言等の支援を随時行っている。 また、各クラブには部費を支給するとともに、試合・行事参加届や報告書を提出させ活動内容の把握に努めている。 <p>②社会貢献活動への支援。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続してボランティア活動を行うようサポートし、自主性、先駆性を持った学生を育てる。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ボランティアセンター運営委員会を適宜実施することで各学科教員と連携し、学生へのボランティア情報周知と参加の促しを継続して行うことが出来た。ボランティア活動参加に意欲的な学生が増えてきたように思う。 <p>③サムスポイント制度の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生への積極的なサムスポイント取得への支援を行う。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 本学ホームページへの掲載及び、学科教員からのアナウンス等により学生への周知を行うとともに、新学期オリエンテーションや学位授与式において高得点取得者を表彰するなど、取得意欲を高めるための活動を行っている。

第2 - 1期の活動計画の達成状況

重点分野5：教職員の人材確保と育成	
<p>【基本方針:2】 さらなる医療・福祉の総合大学化と魅力づくり</p> <p>【基本方針:4】 次世代を担う教職員の養成とモチベーションの向上</p> <p>【中期計画】2018-2020年度</p> <p>1. 大学教員として相応しい人材の確保と育成 2. 自助努力を促しつつFD等による教育能力の向上に努め、次世代を担う教員が育つ環境の整備 3. 大学事務職員としての業務遂行に必要な知識・技能の修得、資質と能力の向上を図る</p>	
<p>責任者: 鎮西康雄 (教務・教育改革担当副学長) 分担者: 出屋敷喜宏 (FD推進委員長)、水谷史生 (法人事務局長)、村田尚久 (大学事務局長)、 矢田智樹 (人事・厚生課長)、松永ひとみ (教務課長) 事務局: 人事・厚生課</p>	
2018年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 大学教員として大学の目標に貢献できる人材を確保する審査基準の確立	<p>①教員の採用・昇任に関する審査基準を確立する</p> <p>◆2019年3月までに審査基準を確立する □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 各学部で選出された教員資格審査委員による審査を現行の全学基準に従って実施しているが、新たな審査基準を明確にすることが未達である。</p> <p>②本学における教員の基礎的資質を明確にする</p> <p>◆教員の基礎的資質を明確にし、学内外に公表する。 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 本学における教員の基礎的資質について学長・副学長が明確にし、公表する方針である。</p> <p>③本学の教育目的や教育課程等に則した教員確保と配置を行う</p> <p>◆2019年3月までに、本学の基準に即した教員確保と配置を行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 本学の教育目的や教育課程等に則した教員確保と配置を行うため教育重視の教員の新規採用を実施した。</p>
2. 教員の教育・研究能力が更に向上できる環境を整備し、次世代を担う教員を育てる	<p>①教員の教育担当時間について、さらなる適正化を図る。</p> <p>◆シラバスによる教員の授業担当時間調査結果を基に、適正化を確認し、必要に応じて教員の配置など検討する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 専門分野については、学科内で適正化を図り、基礎分野について担当部会で検討された案をデータ化し、運営協議会で適正化を図っている。</p>

<p>3. 大学事務職員としての業務遂行に必要な知識・技能の修得、資質と能力の向上を図る</p>	<p>①2019年3月までに、業務遂行に必要な知識・技能の修得を目的とする研修会への参加や、資質と能力を向上させるための研修会を実施する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 教職員の能力・資質を向上させるための研修会(FD・SD)の開催及び研修会への参加促進を実施した。</p> <p>②2019年3月までに、学内外の研修内容・研修成果の学内共有方法を検討する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 研修内容・研修成果については、事務局会議で共有することに決定した。</p>
<p>4. 教育の質的向上に向けた仕組みを作る</p>	<p>・教員の教育力(指導力)向上方策についての検討</p> <p>◆2019年1月までにFDマニュアルを完成し、全教員へ配布 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ほぼ完成しているが、学修サポートシステム導入に伴い、クリックカー利用マニュアル等含めるか否か検討をしている。</p> <p>◆2019年度新規採用教員へ配布し、本学独自の教育の質的向上を目指す。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 7月中には、配布予定。</p>

第2 - 1期の活動計画の達成状況

重点分野6：研究機能の充実	
<p>【基本方針:4】 次世代を担う教職員の養成とモチベーションの向上</p> <p>【基本方針:5】 外部資金の獲得と独創的な研究</p> <p>【中期計画】2018-2020年度</p> <p>1. 本学独自に指導的立場の教員を育てていくための、大学院の充実と研究者の育成を促進する組織体制の構築</p> <p>2. 地域医療に貢献できる独創的な研究を進めるための、研究環境の整備充実と外部資金の獲得</p>	
<p>責任者:川西正祐 (大学院・研究担当副学長/薬学研究科長)</p> <p>分担者:葛原茂樹 (医療科学研究科長)、磯部篤男 (研究振興課長)</p> <p>事務局:研究振興課</p>	
2018年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 本学独自に指導的立場の教員を育てていくための、大学院の充実と研究者の育成を促進する組織体制の構築	<p>①大学全体として、あるいは学科毎にその能力を伸ばすような集団的・横断的指導体制を構築する。</p> <p>◆2019年3月までに、研究力の育成方法を検討し、研究者に対する集団的・横断的指導と研究環境の充実を図る体制を構築する。 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 研究推進委員会と研究ブランド化委員会を立ち上げ、私立大学研究ブランディング事業計画を策定する過程で学科を超えた集団的・横断的指導体制の確立を目指した。ブランディング事業に応募したが、結果は不採択であった。しかし、平成30年度科学研究費補助金 挑戦的研究(開拓):高齢や健康寿命延伸を可能にする栄養-腸内細菌叢-多臓器健全関連の分子機序解明のテーマで採択された。その結果、学内の集団的・横断的な研究グループが形成された。</p> <p>②教員の研究力向上を目指す</p> <p>◆2019年3月までに、若手教員の研究を支援する方策について、学長(大学院・研究担当)の下に研究実施委員会を3回開催し、検討された方策を2019年4月から実施する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 研究実施委員会を2回開催した。2019年度は若手教員の研究を支援する以下の方策を挙げ、検討していきたい。 ・大学全体あるいは学科毎にその能力を伸ばすような集団的・横断的指導体制を構築していく。 ・東洋医学的視点及び薬食同源の観点から、本学の独創的な研究を進めるための研究環境の充実を図る。 ・科学研究費などの外部資金の申請率及び採択率をあげるための具体的方策を実施する。研究実施委員会で各研究科ごとの申請率及び採択率を調査し、より向上を目指すためにも目標値を定める。</p> <p>③本学卒業生の大学院入学を促進し、学生及び大学院生の論理的思考力・問題解決力等についての学内広報の強化、及び同窓会、関連団体と連携した学部卒業生への情報提供強化等を行い、大学院進学を促進する。 ◆2018年12月までに、本学卒業生を対象とした大学院説明会や相</p>

	<p>談会を実施する。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 促進効果の結果として、特に修士課程において公認心理師・臨床心理士受験資格を取得できるコースの認知度が上がり、昨年より10名ほど多い入学者数を達成した。</p> <p>◆大学院生の研究活動などを学内広報誌やホームページを強化し、大学院進学を促進する。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ホームページを新しくし、看護学専攻分野の新設や公認心理師、臨床心理士、細胞検査士の養成コースの設置についてSUMS ニュースなどを利用し、進学を促進した。</p> <p>④質の高い研究が出来るようになり、世界的にインパクトのある研究を増やす ◆国際学会、国際誌へ発表するための支援の一環としてFD講演会を開催する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 科研費では基盤研究(B)(海外学術調査)に採択され、現在遂行中の教員が2名、国際共同研究加速基金(国際共同研究強化)に採択(研究は終了)された教員が1名いる。また、2019年度の国際共同加速基金(国際共同研究強化(B))に2名が応募しており、少しずつではあるが、海外を視野に入れた研究が進展している。 11月にマニトバ大学(カナダ)から教授を招聘し、カナダの管理栄養教育システムと栄養学研究の重要性について講演頂いた。 また、日本薬学会東海支部が主催する他大学での国際講演会にも積極的に参加し、質の高い研究に向けて研鑽している。</p> <p>⑤研究環境の整備を推進する。 ◆研究環境に関する教員及び学生満足度調査を実施する。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 毎年6月頃に大学院兼担教員及び大学院学生に研究及び満足度調査を実施している。</p>
<p>2. 地域医療に貢献できる独創的な研究を進めるための、研究環境の整備充実と外部資金の獲得</p>	<p>①東洋医学的視点及び薬食同源の観点から本学の独創的研究を進めるための研究環境の充実を図る。 ◆2019年3月までに、研究ブランド化委員会で、超高齢社会における疾病予防のための薬食同源・東洋医学的研究拠点を構築し、2019年4月から学内外へ公表する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 このテーマは私立大学研究ブランディング事業の採択を視野に入れての内容であったが、結果は不採択のため、このテーマを見直していく。今後は本学の研究ブランド力を作り上げるため、そのキーワードとして「薬膳」「栄養改善」「腸内細菌叢」「超高齢化」「健康寿命延伸」と、病院設立に向けた「緩和ケア」が含まれるが、これらを踏まえた研究体制を検討していく。</p> <p>②各学科・各研究科・各分野に、独創的な研究対象を設け、共同研究を進める体制を構築 ◆大学院の研究指導教員を増やし、研究指導力の強化を目指す。 ■達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容</p>

	<p>看護学専攻分野の設置の伴い研究指導教員を 11 名増やした。また、共通分野の充実を図るため、専門分野から研究内容が共通分野に近い 2 名を配置換えした。</p> <p>◆全学的な集団研究体制の構築を検討する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 平成 30 年度科学研究費補助金 挑戦的研究(開拓): 高齢や健康寿命延伸を可能にする栄養-腸内細菌叢-多臓器健全関連の分子機序解明のテーマで採択された。その結果、学内の集团的・横断的な研究グループが形成された。今後も研究テーマによっては集団研究体制を編成していく。</p> <p>③学内に研究指導者が求められない場合のために、他大学の研究に参画する準備を整え、研究に行き詰った場合には、それを打開するようなアドバイスなどをする体制の整備。 ◆三重大学との連携協定に加え、関連大学や院生所属機関の研究指導者を本学の臨床教授として、委嘱する仕組みを整備する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 東京・名古屋サテライトキャンパスに所属する社会人院生の職場上司などに臨床教授を委嘱し、日頃の研究指導をする仕組みを整備した。</p> <p>④科学研究費などの外部資金の申請率及び採択率をあげるための具体的方策を実施 ◆2018 年度の科学研究費採択額順位 100 位以内を目指す。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 研究実施委員会で、科学研究費補助金の応募を増加する方針のもと、平成 30 年度の科学研究費補助金の配分順位が私立大学 570 校中 101 位であった。(68 件、81640 千円) (平成 29 年度 565 中 121 位、57 件、62478 千円)</p> <p>◆より良い科学研究費申請書作成のための支援講習会を開催する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 応募前に審査委員経験者による申請書確認を実施した。</p> <p>◆科学研究費などの外部資金の申請率及び採択率をあげるために、教員評価システム項目の研究面について、より充実させる。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 教員評価システムが試行期間を経て本格的に実行された後、その状況を見ながら研究への貢献度も評価項目に加えるよう検討していく。</p> <p>◆文部科学省私立大学研究ブランディング事業の採択を目指す。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input checked="" type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ブランディング事業に応募したが、結果は不採択であった。</p> <p>⑤研究倫理の確立と厳正な運用の実施 ◆学内規程の整備と研究倫理・研究不正防止に関する講習会ならびに e ラーニングによる研究倫理教育の実施。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 コンプライアンス研修を科研費応募の時期に、または動物実験教育訓練を 5 月にそれぞれ毎年開催し、教員等研究に係る者への倫理教育を</p>
--	---

	徹底している。
--	---------

第2 - 1期の活動計画の達成状況

重点分野7：地域・産学官連携推進	
<p>【基本方針:2】 さらなる医療・福祉の総合大学化と魅力づくり</p> <p>【中期計画】2018-2020年度</p> <p>1. 社会に対する情報発信のための地域・産学官連携研究活動の推進 2. 学内研究の活性化に向けた地域・産学官連携研究活動の強化</p>	
<p>責任者:鈴木宏治(社会連携研究センター長) 分担者:磯部篤男(研究振興課長) 事務局:研究振興課</p>	
2018年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 社会に対する情報発信のための地域・産学官連携研究活動の推進	<p>① 県・市町・企業・地域団体等との間で行う研究に関する産学官連携研究活動の推進</p> <p>◆地域・産学官連携に基づく企業等との共同研究の積極的推進 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 江南化工(株)、(有)明日香等との産学共同研究を実施した。</p> <p>◆SUZUKA産学官交流会活動への参加による広報活動等の推進 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 SUZUKA産学官交流会役員会に毎回出席し、理事、事務局員として建設的意見を述べるなど交流会の活動に参画すると共に、本学の研究成果等を積極的に広報した。</p> <p>◆みえメディカルバレー構想活動への参加による広報活動等の推進 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 みえメディカルバレー企画推進会議会長としてみえメディカルバレー構想の活動計画の立案に携わると共に、本学の研究成果等を積極的に広報した。</p> <p>◆みえライフイノベーションプロジェクト鈴鹿関連活動への参加 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 みえLIP鈴鹿での活動(定期的な鈴鹿病態薬学研究会の開催、SUZUKA産学官交流会における鈴鹿高専や鈴鹿大学との交流など)に積極的に参画した。</p> <p>◆三重県産業支援センター活動への参加 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 三重県産業支援センター評議員として、当該センター評議員会に出席しセンターの活動支援と評価に積極的に参画した。</p> <p>◆イノベーションジャパン(於:東京ビッグサイト)への参加による研究成果等の積極的広報の推進 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容</p>

	<p>放射線技術科学科・川野 誠教授の研究成果を発表し、好評を得た。</p> <p>◆鈴鹿病態薬学研究会の継続 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 例年通り、年2回の研究会を開催した(これまでに15回開催)。</p>
<p>2. 学内研究の活性化に向けた地域・産学官連携研究活動の強化</p>	<p>① 地域・産学官連携研究活動の強化に向けた方策の具体化</p> <p>◆社会連携研究センター運営委員会の年間4回以上の開催 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 当該運営委員会を年間3回開催した。</p> <p>◆社会連携研究センターHPに研究シーズ集、地域・産学官連携活動成果の掲載 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 社会連携研究センターのHPに研究シーズ集、地域・産学官連携活動成果を掲載した。</p> <p>◆SUMS-NITS 医工連携研究会を年間3回以上の開催 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 SUMS-NITS 医工連携研究会を年間2回開催した。</p> <p>◆三重大学、鈴鹿高専等との連携による共同研究や研究会への積極的な推進 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 三重大学、鈴鹿高専等との3大学公開フォーラムを実施した。</p> <p>② 社会連携研究活動の推進に向けた方策の検討</p> <p>◆鈴鹿医療科学大学・研究シーズ集2019の刊行 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 本学の研究シーズ集2019を1月に刊行した。</p> <p>◆鈴鹿医療科学大学・研究紀要2018の刊行 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 本学の研究紀要2018を1月に刊行した。</p> <p>◆研究シーズ集・研究紀要の地域・産学官組織への積極的配布 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 本学の研究シーズ集2019と研究紀要2018を公的研究機関、金融機関等に配布した。</p> <p>◆入試広報活動における鈴鹿医療科学大学・研究紀要の活用 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 教員の県内外の高校訪問時に本学の研究紀要2018を持参して高校の入試担当教員に手渡し、本学の紹介を行った。</p>

第2 - 1期の活動計画の達成状況

重点分野8：国際交流の推進	
<p>【基本方針:2】 さらなる医療・福祉の総合大学化と魅力づくり</p> <p>【中期計画】 2018-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グローバル化に向けた国際交流のための学内体制の整備と支援体制づくり 2. 各学科単位での学生の海外体験の機会の拡充、教員の国際対応力と国際的な発信力の強化 3. 欧米とアジア地域における保健・医療・福祉領域の学術・教育の交流拠点づくりの促進 	
<p>責任者: 葛原茂樹 (医療科学研究科長) 分担者: 磯部篤男 (研究振興課長) 事務局: 研究振興課</p>	
2018年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. グローバル化に向けた国際交流のための学内体制の整備と支援体制づくり	<p>①学内国際交流拠点として国際交流室（仮称）設置を大学に提案する。 ◆2019年3月までに国際交流室設置の目途をつける。 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 国際交流委員会は全学科代表で構成する委員会を設置し、全学と各学科の国際交流活動の支援と実態調査を実施している。これに対して、事務担当者を置く大学組織としての国際交流室設置は、大学と法人に要請しているが、人員と予算を伴う関係で実現できていない。ただし、2019年度から防災・危機管理対策委員会が設置され、この中に国際交流を推進するうえで最重要課題である海外危機管理部会が設置されたことは、先述の国際交流室設置に向けて着実に前進したといえる。 なお、2019年度から中国からの大学院生受入れが決定しており、大学として、留学生の就学と生活の両面での支援体制づくりに取り組む必要がある。</p> <p>②学生・教職員の国際交流支援体制づくり。渡航手続きマニュアル作り、安全情報、予防接種などの情報提供、実施医療施設調査などに着手する。 ◆2019年3月までに、支援体制の中で実現可能なものについて、マニュアル化する（渡航手続き、診断書作成や予防接種実施施設など）。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 教職員や学生が海外に渡航する際、予防接種や英文診断書が必要となるケースがあるため、本学から比較的近隣の医療機関や連絡先、病気の種類等を記載した資料を委員全員で共有した。それ以外の部分については未着手である。</p> <p>③学内の各レベル（大学、学部、学科、個人）で実施されている国際協力活動（学術、教育、その他）の現状調査の実施と、現在、継続的あるいは萌芽的に進行中のものがあれば、将来の発展性を含め調査を実施する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 2018年度開催の委員会において、各学科における国際交流活動の現状を報告し、全員で共有した。2019年度についても継続して各学科からの活動計画を提出することにより、進捗状況を確認していく。</p>

	<p>④国際交流活動の参考にするために、他大学の組織や活動を調査する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 本件は未着手のため2019年度以降も継続していく。</p>
<p>2. 各学科単位での学生の海外体験の機会の拡充、教員の国際対応力と国際的な発信力の強化</p>	<p>①国際対応力実践の場として、H29年度に学生の海外研修を実施した鍼灸サイエンス、医用情報工、看護の3学科の活動を継続的なものにする。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 2018年度も以下の学科において海外研修を実施し、活動は継続的なものになってきている。 鍼灸サイエンス学科：天津中医薬大学(中国)2019年3月17～21日 医用情報工学科：漢陽大学校(韓国)2018年9月3～5日 看護学科：Biola大学(アメリカ)2019年3月16～25日</p> <p>②未実施の全ての学科においても、教員と学生の一定数が海外体験することを目標に、学科単位で実施する。 ◆2019年3月までに複数学科において、継続的な学生の海外研修を実施する(鍼灸サイエンス学科、医用情報工学科、看護学科は計画進行中。他学科でも可能性を探る) <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 鍼灸サイエンス学科、医用情報工学科、看護学科は①のとおり海外研修を実施した。これら以外では以下の学科が学会発表等で海外体験を経験した。 放射線技術科学科：中山医学大学(台湾)2019年3月9～10日</p>
<p>3. 欧米とアジア地域における保健・医療・福祉領域の学術・教育の交流拠点づくりの促進</p>	<p>①三重県国際医療技術連携体制(M-MUSCLE)と連携し、国際交流を推進する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 委員会での検討はされているが、具体的にM-MUSCLEとの連携までは至っていないため、連携体制の構築ができるよう2019年度も検討していく。</p> <p>◆三重県国際医療技術連携体制(M-MUSCLE)の定期会議に参加して、情報収集をするとともに、2018年度の募集があれば、英国との看護師・看護学生研修プログラムに本学からの海外研修参加者を確保する <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 三重県国際医療技術連携体制(M-MUSCLE)において、英国との看護師・看護学生研修プログラムに県の支援を得て実施されている英国等への短期海外研修への応募は、2018年度は本学からの応募はなかったが、2019年度も引き続き積極的応募を促していく。</p> <p>②本学活動として、鍼灸サイエンス学科(天津中医薬大学など)、医用情報工学科(韓国ソウル市漢陽大学校)、看護学科(米国ロサンゼルスBiola大学)の交流を継続させ、協定に基づく大学レベルでの交流にレベルアップしていく。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 天津中医薬大学(中国)と鍼灸サイエンス学科は、海外研修を通じて定期的な交流を確立させているが、さらに日本薬膳学会を通じて中国の学会との交流が継続的に行われている。 医用情報工学科と看護学科については大学間の協定が締結できるよう引き続き交流を図っていく。</p>

	<p>③薬学研究科ではタイ国コンケン大学との協定に基づく学術交流を推進する。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>タイのコンケン大学医学部と本学大学院薬学研究科との間で、双方の学術および教育・研究活動において相互利益と発展、国際理解と親善を深めることを趣旨として、平成28年10月11日に国際交流協定(MOU)が締結された。平成28年10月より5年間を有効期間とし、その後、両機関の同意により更新するものとしており、国際交流の一環として、道筋を確立することを目指している。</p> <p>今年度は同大学から教員が来日、研究打ち合わせが行われた。また、三重県が実施する薬剤師のインセンティブツアーで来日するタイからの薬剤師が本学を訪問した。現在もタイ肝吸虫による胆管がん発生の機序に関する共同研究が続いている。</p> <p>◆学生の海外研修実施校の状況を調査し、大学間協定締結などによる定期的交流や単位互換実施の可能性を探る。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>本件は未着手のため2019年度以降も継続していく。</p>
--	---

第2 - 1期の活動計画の達成状況

重点分野9：大学活性化のための継続可能な組織体制改革	
<p>【基本方針:4】 次世代を担う教職員の養成とモチベーションの向上</p> <p>【基本方針:6】 公益性と収益性の両立</p> <p>【中期計画】2018-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学長のリーダーシップのもとで、組織目標達成のためのPDCAサイクルの質の向上 2. 現場の職員の知恵を生かした、組織・業務プロセスの見直しによる効率化と質の向上 3. 教職員評価制度の適切な運用による教職員のモチベーション向上 4. 大学の危機全般に対して、教職員が的確に判断し円滑に対応できる危機管理体制の整備 	
<p>責任者：豊田長康（学長）</p> <p>分担者：水谷史生（法人事務局長）、村田尚久（大学事務局長）、林 雅樹（白子事務部長）、宮崎和裕（管財課長）、勝田能成（前管財課長）、大畑江美子（庶務課長）</p> <p>事務局：人事・厚生課、庶務課</p>	
2018年度活動計画	
対応する中期計画の項目	活動計画内容
1. 学長のリーダーシップのもとで、組織目標達成のためのPDCAサイクルの質の向上	<p>学長のリーダーシップの下に組織としてのPDCAを着実に回す。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>従来大学執行部によりPDCAを回してきたが、各学科単位でも活動計画を作成しPDCAを回している。また、教育評価制度の制定により、教員一人一人にPDCAを回す仕組みを導入した。</p>
2. 現場の職員の知恵を生かした、組織・業務プロセスの見直しによる効率化と質の向上	<p>事務組織の更なる機能の向上を図るために、人材の再配置を検討する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>大学院業務が繁忙となるため、新たに教務課から独立して大学院課を新設した。</p>
3. 教職員評価制度の適切な運用による教職員のモチベーション向上	<p>システムの現状を確認し、改善案を検討する。教育または研究に集中する教員の評価が出来るシステムを構築する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>教員評価の本実施に向けてのシステム検証は終了した。ただし、処遇に反映するに相応しくかつ整合性のとれた、より良いシステムを構築するため引き続き検証していく。</p>
4. 大学の危機全般に対して、教職員が的確に判断し円滑に対応できる危機管理体制の整備	<p>2019年3月までに、危機管理マニュアルを作成するため、整備が必要な危険項目について検討する。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>学長統括のもと、防災・危機管理対策委員会を立ち上げ、危機管理体制の整備及び危機管理マニュアルの再構築の準備を行った。</p>

第2 - 1期の活動計画の達成状況

重点分野 10 : 財政基盤の充実	
<p>【基本方針:6】 公益性と収益性の両立</p> <p>【中期計画】2018-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 財源確保策の実践による安定的な財政基盤の構築 2. 補助金制度と大学のシーズを活用した外部資金の獲得推進 3. 効果的な経費削減の推進 	
<p>責任者:水谷史生 (法人事務局長) 分担者:磯部篤男 (研究振興課長)、勝田能成 (前管財課長)、宮崎和裕 (管財課長)、岩田善光 (経理課長) 事務局:経理課</p>	
2018年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 財源確保策の実践による安定的な財政基盤の構築	<p>・保健衛生学部リハビリテーション学科の設置に伴う収容定員増及び定員未充足学科の定員確保により学生生徒等納付金収入増を図る。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 2018年11月、企画課が中心となって、競合する他大学の学納金と比較することで本学の学納金の相対的な評価を調査した。その調査結果を踏まえ、経理課と共に学納金の改正案を作成した。 2019年3月28日開催の理事会にて改正案が審議され、2020年度入学生から適用することが決議された。</p> <p>・大学広報の強化により、志願者数増加を目指し、入学金収入・入学検定料収入の増加を図る。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 2018年度決算において、入学金収入(※)・入学検定料収入ともに前年度比で約7%増加している。 (※)入学金収入は、志願者数増加を目指した結果を比較するため、2019年度入学者(入学金前受金収入)と2018年度入学者(入学金収入)で比較している。</p>
2. 外部資金の獲得	<p>①教育研究設備・装置等に関する補助金制度の積極的な活用を促進する。 「教育基盤設備」「研究設備」「ICT活用推進事業」について、補助事業の需要調査をする。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 文部科学書の「私立大学における補助事業」に応募をした。 結果として、「私立大学等研究設備整備費等補助金」の「研究設備」について「採用」となった。 白子キャンパスに設置の「蛍光顕微鏡システム」購入にあたり、費用の2/3の助成があった。</p> <p>②教員等の研究活動に資するための財政基盤として、大学の研究シーズを基にした受託・共同研究費や寄付金を獲得する。</p>

<p>2. 外部資金の獲得</p>	<p>◆研究シーズ集を銀行、商工会議所、三重県産業支援センター等に配布する ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 全学シーズ集を身近な存在として活用していただけるように18の公的機関・企業支援団体・金融機関に配布を依頼した。</p> <p>◆受託・共同研究費や寄付金を獲得し、研究活動を活発化させる ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2018年度の受託・共同研究の入金額は12件、22,194千円。(2017年度11件、15,500千円)</p>
<p>3. 効果的な経費削減の推進</p>	<p>・経費削減推進活動の取組みを継続し、全学的に経費削減意識の向上と定着化を図る。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 物品購入等申請書、伺書等の稟議書の決裁者(特に法人事務局長、経理課、管財課を中心)による費用対効果の薄い案件や必要とする理由が不明確な案件など、経費の無駄遣いに繋がりそうな案件については、金額の減額や申請の取り下げを行わせるなどの指導を継続して行っている。</p> <p>・目標となる収支差額の比率を定め、目標達成に向けた予算削減を編成者に考えさせるスキームを検討し、2019年度予算案の作成時にまずは事務局の予算編成から実行する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2019年度予算案の事務局予算の編成を11月と1月の2回に提出させた。11月の予算編成の結果を受け、支出削減目標を6%と定めたことを予算編成者に通知し、1月の最終予算案の提出までに経費削減の検討をさせることができた。</p>

第2 - 1 期の活動計画の達成状況

重点分野 11：4つのポリシーの実質化	
<p>【基本方針:1】 満足度の高い教育の推進 【中期計画】2018-2020 年度 1. 4つのポリシーの策定と運用についてガイドラインに則した PDCA サイクルを実行</p>	
<p>責任者: 豊田長康 分担者: 教育改革委員会 事務局: 教務課</p>	
2018 年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
<p>4つのポリシーの運用についてガイドラインに則した PDCA サイクルを実行</p>	<p>① 4つのポリシーの運用に関する PDCA サイクルの仕組みを実行 ◆ 2018 年 9 月のガイダンスで、教育目標を踏まえたディプロマポリシーを学生に周知する。 ■ 達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 9月のガイダンス時にカリキュラムマップを全学生に配布し、学生自身が修得した科目に色を塗り、その資料を基に担任と個別面談する仕組みを実施した。</p> <p>◆ 2018 年 9 月のガイダンスで、カリキュラムポリシーを学生に周知し、ディプロマポリシーとの一貫性を確認し、教育課程が体系的に編成されていることを説明する。 ■ 達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 各学科・学年における9月のガイダンスで、カリキュラムマップと学生要覧を基に説明された。</p> <p>◆ アドミッションポリシーと教育課程との整合性を点検し、PDCA サイクルを回す。 ■ 達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 PDCA サイクルのチェック機能の一つとして、9月開催の教育改革委員会およびFD推進委員会に、教育改善委員として任命された全学科の学生が、参画し検証した。</p> <p>② ディプロマポリシーの達成度をチェックする仕組みを構築する。 ◆ 2019 年 3 月までに、ディプロマポリシーの達成度をチェックするために、学生の学修成果に関する情報を、的確に把握・測定する仕組みを構築する。 ■ 達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2018 年度全卒業生に対し、アンケートを実施し、集計データを4月開催の教務委員会で検証した。</p> <p>③ 各学科のアセスメントポリシーについて、自己評価委員会を通して確認し、PDCA を回す。 □ 達成(100%) ■ ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p>

	<p>上記達成状況の具体的内容 教育質保証委員会を設置し、役割の一つとして、自己評価委員会で学科内の活動報告をする仕組みを計画中。</p>
--	--